

	<h2 style="color: green;">ジュンサイを残そう市民の会 虫の調査会</h2> <p>作成日：2020/10/29</p>																															
活動日時	2020年（令和2） 10月25日（日） 虫の調査 10:00～12:00																															
天候	晴れ 穏やかな日差しの中、一陣の風が吹くことあり																															
活動場所	自然環境ゾーン内、会の管理地																															
参加者数	虫の調査：21名（内会員外参加4名）																															
調査活動内容	<p>日本甲虫学会会員 宮内 博至氏（ジュンサイを残そう市民の会会員）を講師として、虫の調査を実施した。10:15～11:40 まで 管理地内の草地や藪の中、踏み板の下などに生息する生きものを講師を先頭に皆で探した。その後まとめ・解説。上空を飛ぶチョウやトンボは捕虫網を使用。講師が持参したビーティングネットや吸虫管の紹介があり、ところどころの藪をたたいて、ネットに落ちる虫を観た。小さな虫が多く、それらは虫メガネで観察。虫（正確には昆虫）の90%以上は体長1cm以下で、その平均値は2～3mmとの説明があった。観察された虫類等は幼虫や卵も含め以下の28種。</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td>1. オンブバッタ</td> <td>11. チャバネアオカメムシ</td> <td>21. オオカマキリ卵のう</td> </tr> <tr> <td>2. コバネイナゴ</td> <td>12. ヤマトシジミ</td> <td>22. オオアオイトトンボ</td> </tr> <tr> <td>3. ナガゴミムシ類</td> <td>13. ホソヒラタアブ</td> <td>23. モリオカメコオロギ</td> </tr> <tr> <td>4. コガネムシ類幼虫</td> <td>14. コミスジ</td> <td>24. サビキコリ</td> </tr> <tr> <td>5. ナメクジ類</td> <td>15. カノコガ</td> <td>25. イノコヅチカメノコハムシ</td> </tr> <tr> <td>6. アオバハゴロモ</td> <td>16. ツツジグンバイ</td> <td>26. ガガンボ類</td> </tr> <tr> <td>7. クロヤマアリ</td> <td>17. ツマグロヒョウモン</td> <td>27. カネタタキ（鳴き声）</td> </tr> <tr> <td>8. タケノホソクロバ幼虫</td> <td>18. オオホシカメムシ</td> <td>28. アオマツムシ（鳴き声）</td> </tr> <tr> <td>9. ガ類幼虫</td> <td>19. アリモドキ類</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10. アキアカネ</td> <td>20. モンクチビルテントウ</td> <td></td> </tr> </table> <p>その他 ・オンブバッタとショウリョウバッタの見分け方 ・コバネイナゴとハネナガイナゴの見分け方 ・アリはじゅん菜池で10種ほどいておかしくないこと など。昆虫はまだ生態がわからないものも多い とのことであった。</p>		1. オンブバッタ	11. チャバネアオカメムシ	21. オオカマキリ卵のう	2. コバネイナゴ	12. ヤマトシジミ	22. オオアオイトトンボ	3. ナガゴミムシ類	13. ホソヒラタアブ	23. モリオカメコオロギ	4. コガネムシ類幼虫	14. コミスジ	24. サビキコリ	5. ナメクジ類	15. カノコガ	25. イノコヅチカメノコハムシ	6. アオバハゴロモ	16. ツツジグンバイ	26. ガガンボ類	7. クロヤマアリ	17. ツマグロヒョウモン	27. カネタタキ（鳴き声）	8. タケノホソクロバ幼虫	18. オオホシカメムシ	28. アオマツムシ（鳴き声）	9. ガ類幼虫	19. アリモドキ類		10. アキアカネ	20. モンクチビルテントウ	
1. オンブバッタ	11. チャバネアオカメムシ	21. オオカマキリ卵のう																														
2. コバネイナゴ	12. ヤマトシジミ	22. オオアオイトトンボ																														
3. ナガゴミムシ類	13. ホソヒラタアブ	23. モリオカメコオロギ																														
4. コガネムシ類幼虫	14. コミスジ	24. サビキコリ																														
5. ナメクジ類	15. カノコガ	25. イノコヅチカメノコハムシ																														
6. アオバハゴロモ	16. ツツジグンバイ	26. ガガンボ類																														
7. クロヤマアリ	17. ツマグロヒョウモン	27. カネタタキ（鳴き声）																														
8. タケノホソクロバ幼虫	18. オオホシカメムシ	28. アオマツムシ（鳴き声）																														
9. ガ類幼虫	19. アリモドキ類																															
10. アキアカネ	20. モンクチビルテントウ																															
備考	会内部の調査としての実施だったが、先日の観る会にいらした近隣にお住いの親子連れ3組の参加があった。そのうち1組は当日、会員になってくださった。																															
記録者	写真：田中（直）、徳永 観察種の記録：門田 文：禿																															
<div style="display: flex; flex-wrap: wrap;"> <div style="width: 33%; text-align: center;">  <p>宮内講師が持参されたビーティングネットを広げ、蠢いている小さな虫を探す（左） 講師が右手に持つものが吸虫管。小さな虫を吸い取って管に入れて観察（右）</p> </div> <div style="width: 33%; text-align: center;">  </div> <div style="width: 33%; text-align: center;">  </div> <div style="width: 33%; text-align: center;">  </div> <div style="width: 33%; text-align: center;">  </div> <div style="width: 50%; margin-top: 10px;"> <p>コバネイナゴは羽の長さが胴体よりも短い特徴あり（上） ササの葉の裏にいたのはオレンジ色のタケノホソクロバというガの幼虫！（右）</p> </div> <div style="width: 50%; margin-top: 10px;"> <p>宮内講師を囲んで、解説に耳を傾ける会員の皆様、普段は目に留まらない小さな虫の生存に気づかされました。</p> </div> </div>																																